

こう りつ ちゅう こう いっ かん こう
公立中高一貫校
 こう かく りよく こう ざ
合格力講座

2018 年度
合格 へのこの一問!

執筆・早稲田進学会(大島茂) イラスト・青山ゆういち

ペットの現状から、どのように飼育していくべきか考えよう。

ちょう せん
挑戦!

川崎市立川崎高校附属中 2017年度
 適性検査Iから抜粋(一部改変)

たろうさんたちは川崎市に関する調べ学習の話をしています。下の会話文を読んで、問題1～問題4に答えましょう。

はなこさん: 私、興味深いニュースを見つけたの。

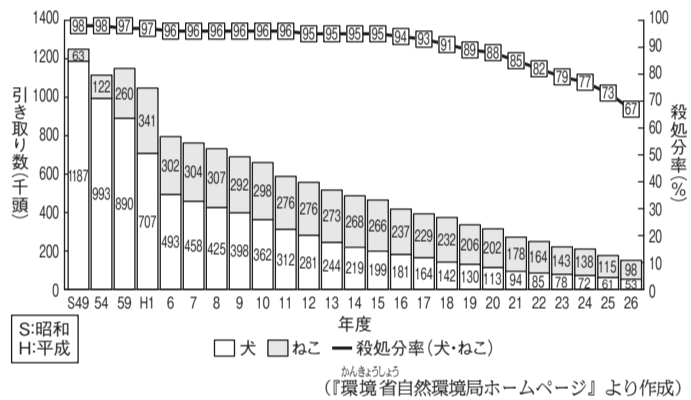
たろうさん: どんなニュースがあったの。

はなこさん: 川崎市では平成25年度から3年連続で、動物愛護センターで殺処分された犬がいなかったそうなの。

たろうさん: 動物愛護センターで、犬を殺すってどういうことなの。

はなこさん: もらい手が見つからなかった犬やねこはそうなるってしまふみたい。全国では殺処分されている犬やねこの数がどれくらいあるのか疑問に思ってた。調べてみたら「資料1」を見つけたの。行政機関が引き取った数と途中で殺処分された割合を示したもののなだけだ。

【資料1】全国の行政機関による犬・ねこの引き取り数と殺処分率のうつり変わり



たろうさん: まだたくさん犬やねこが殺処分されているんだね。川崎市でも犬の殺処分はなくなったみたいだけど、ねこの方はまだ殺処分が行われているんだね。

はなこさん: ねこについては完全には達成できなかったみたいなの。それでもかなり減ってはいるみたいだけど。そういえば「資料1」でも、最初のころは犬の引き取り数の方が多かったのに、いつの間にかねこの引き取り数の方が多くなっているわね。

たろうさん: 犬とねこは何かちがいがあのかな。

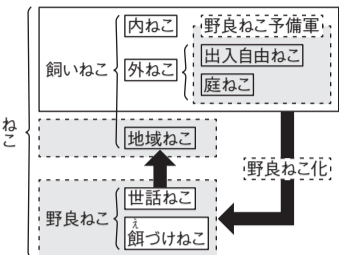
はなこさん: 川崎市のホームページで、動物についてのあつかいを調べてみたら、ねこについては「資料2」、犬について

資料問題編⑩

ペットを飼う上で大切なことは?

は「資料3」を見つけたわ。どちらも動物を飼育する人に向けて川崎市が作ったページだけど。

【資料2】ねこの分類表



【資料3】犬の飼育について

犬鑑札
 登録手数料3,000円(初年度のみ)
 登録の証明です。
 必ず犬に装着しておいてください。

【飼い犬の飼育方法】
 飼い犬は丈夫なくさりなどにつなぐ、またはおりになどに収容してつなぐなど。飼い犬を移動または運動させる場合には、管理・しつけのできる者が、飼い犬を丈夫につなぐ・くさりなどでしっかりと保持して行うこと。

(川崎市ホームページより作成)

はなこさん: 犬を飼うためには法律で定められた決まりがいくつかあるみたいよ。ねこについては川崎市では、分類表を作っているけど、この表から①ねこを野良ねこにしないために、どうすればよいかを考えられないかしら。

たろうさん: ぼくは川崎市で犬とねこがどれくらい保護されているかが気になったから調べてみたら「資料4」を見つけたよ。これは路上などの公共の場所で負傷した犬やねこなどが保護された頭数をあらわした表だよ。

【資料4】負傷動物の動物愛護センターへの収容数のうつり変わり

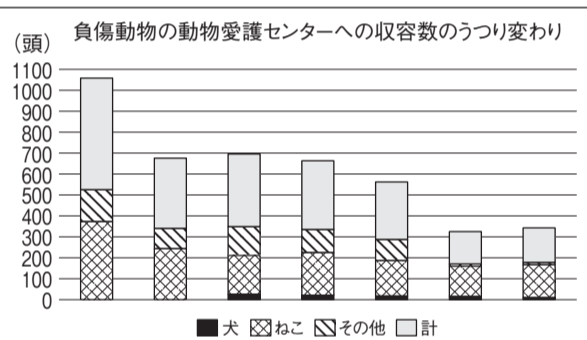
年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
犬	0	0	20	16	9	5	2
ねこ	376	244	189	203	172	149	158
その他	154	95	138	111	98	5	7
計	530	339	347	330	279	159	167

(川崎市における動物行政の方向性と動物愛護センターのあり方)より作成)

はなこさん: 見比べてみると、犬とねこではかなりちがいが見られるのね。②このちがいはどこから生まれるのかしら。

たろうさん: 数字だけ並べるよりも見やすくなるかと思って、「資料4」をもとにして「資料5」を作ったよ。

【資料5】たろうさんが「資料4」をもとにして作ったグラフ



はなこさん: すごいわ、たろうさん。たしかにグラフにすると数字だけよりもイメージがつかみやすいわね。でも、私が見ただけでも2つ変なところがあるわよ。

たろうさん: 本当だ。③手直しをしないとね。適切なグラフを作るのは難しいね。実際に作ってみると大切さがわかったよ。

はなこさん: 「資料1」や「資料4」を見ると、殺処分の数や収容される数が減ってきていることがわかるわ。これらを継続するにはどのような取り組みが必要かしら。

たろうさん: 「動物を飼う人の責任として、できる限り」義務がある」という内容の文章が付け加えられたのが、

最近では大きな変化みたいだよ。はなこさん: 動物を飼う人には当たり前の心構えのように思えるけど、それができていない人もいるということなのね。

問題1 下線部①について、「資料2」のねこの分類表の中でもっとも「野良ねこ」になりにくいねこをぬき出して書きましょう。

問題2 下線部②は、はなこさんが「資料4」を見て疑問に思ったことの発言です。「ちがいが」が生まれた理由として考えられることを、ねこについては「資料2」、犬については「資料3」をもとに、それぞれ解答らんには合うように書きましょう。

ねこは飼いねこでも、()から。犬の飼い主は、()から。

問題3 下線部③でたろうさんが気がついた「資料5」のグラフの誤りとして考えられることを2つ書きましょう。

問題4 文中の()にあてはまる言葉を解答らんには合うように書きましょう。

できる限り()義務がある。

まず解いてみよう!

解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう!

解説

問題1 飼いねこの中でも「外ねこ」は外にいる機会が多いため野良ねこ化する可能性は高いですね。

問題2 資料4が表している収容数は、路上などの公共の場所で保護された頭数です。ねこ犬のどちらがそのような場所に出て行きやすいのかを資料3、4から考えてみましょう。

問題3 資料4のように、あるものごとの「うつり変わり」(推移)を表す場合は、年度ごとの量の変化がポイント。それをグラフ化する場合は、年度と量がそれぞれ横・縦に表される必要があります。また、犬、ねこなどの各項目の頭数を積み重ねた棒が各年度の合計数を表していますので、それ以上の積み重ねは不要です。

問題4 会話文の「殺処分の数や収容される数が減ってきていること...を継続するには」という視点から考えると、飼い主はどうすべきかがわかりますね。

解答例

問題1 内ねこ

問題2 (ねこは飼いねこでも、)自由に家の外に出ることが出来る(犬の飼い主は、)犬の登録や、くさりなどでつなぐ必要はない

問題3 グラフの横・縦の情報が何を表すものなのか書かれていないこと。犬、ねこ、その他の数を合計した数値がグラフに反映されていること。

問題4 飼っている動物がその命を終えるまで飼いつづける